



長崎県 長崎市消防局  
消防局長 紅露 孝也

## 安全で安心な都市

### 1 長崎市の概要

長崎市は、九州の西端に位置し、港を活かした国際交流都市として、深い歴史とかけがえのない多くの資源を有しており、上海と東京、ソウルと大阪までがほぼ等距離に位置しています。気候は西海型気候区に属し、温暖多雨な地域です。

市域の大部分は、標高590mの八郎岳を最高点とする300mから400m級の山々によって占められており、リアス式の長く複雑な海岸線とあいまって「海と緑」を身近に感じることができます。豊かな自然に恵まれ、市内には大浦天主堂を始めとする国宝や、眼鏡橋等の国指定重要文化財が多数存在しています。

市内では、四季折々に様々なイベントを実施しており、10月には360年の歴史と伝統があり、秋の長崎を代表する行事「長崎くんち」が開催されます。

また、「坂の長崎」と形容されるように、長崎港に面して山腹を這い上がるように斜面市街地が形成されており、このような地形的特性から、他都市に比べて急傾斜地崩壊の危険性が高く、火災危険予想区域も多く、幾多の災害を経験しています。



長崎市全景

### 2 長崎大水害を教訓として

昭和57年(1982年)には、1時間の最大降水量が127.5mmという記録的な豪雨による『7.23 長崎大水害』に見舞われ、死者行方不明者262名に及ぶ甚大な災害を被りました。

こうしたことから、災害に強い都市づくりのために防災情報通信システムの整備等防災対策の推進を図る一方、市民に対して防災知識の普及および防災意識を啓発しています。さらに、自主防災組織や婦人防火クラブ等の育成指導を促進し、「自分たちのまちは、自分たちで守る。」といった地域住民の連帯感による自主的な防災体制の強化を図っています。

### 3 消防局の体制

昭和23年3月に自治体消防として発足し、現在、1本部、3署、16出張所、5派出所(うち受託地域5出張所、3派出所)、職員数527名で構成し、近隣10か町の受託地域を含め、管内人口542,298人の住民が安全で安心して暮らせるよう、数々の施策を推進しています。

現在、長崎市の防火防災の中核拠点として、消防局・中央消防署庁舎の建替えを、平成18年度中の竣工を目指して準備を進めています。

おわりに、複雑多様化する災害や年々増加の一途にある救急需要に対応するため、地域に密着した防災機関として市民とともに安全で安心な都市づくりを推進し、さらなる消防防災体制の強化に全力を傾注してまいります。



長崎くんち



婦人防火クラブの防災訓練